

令和5年第11回

札幌市教育委員会会議録

令和5年第11回教育委員会会議

1 日 時 令和5年7月21日(金) 13時30分～16時45分

2 場 所 STV北2条ビル6階 A・B会議室

3 出席者

教 育 長	檜 田 英 樹
委 員	阿 部 夕 子
委 員	佐 藤 淳
委 員	石 井 知 子
委 員	中 野 倫 仁
教育次長	竹 村 真 一
生涯学習部長	木 村 良 彦
学校施設担当部長	池 田 秀 利
学校教育部長	長谷川 正 人
国語小委員会委員長	田 中 義 直
教科用図書選定審議会委員	井 上 絵 里
理科小委員会委員長	田 邊 芳 明
教科用図書選定審議会委員	高 桑 陽 子
家庭小委員会委員長	近 香 奈 子
教科用図書選定審議会委員	山 口 剛
体育小委員会委員長	嶋 本 剛
教科用図書選定審議会委員	岩 田 悟
道徳小委員会委員長	三戸部 文 彦
教科用図書選定審議会委員	湯 澤 将 武
外国語小委員会委員長	加 藤 勝 宏
教科用図書選定審議会委員	丸 山 未 来
児童生徒担当部長	廣 川 雅 之
教職員担当部長	佐 藤 圭 一
総務課長	前 田 憲 一
庶務係長	新 井 達 之
書 記	鶴 江 哲

4 傍聴者 27名

5 議 題

協議第1号 令和6年度使用教科用図書を選定について

【開 会】

- 檜田教育長** これより、令和5年第11回教育委員会会議を開会いたします。
本日の会議録の署名は、阿部夕子委員と佐藤淳委員をお願いいたします。
なお、道尻豊委員より、所用により会議を欠席される旨の連絡がございました。

【議 事】

◎協議第1号 令和6年度使用教科用図書の選定について

- 檜田教育長** それでは、議事に入ります。協議第1号「令和6年度使用教科用図書の選定について」です。はじめに、教科用図書採択にかかるこれまでの経過と今後の流れ等について、事務局から説明をお願いいたします。

- 学校教育部長** 学校教育部長の長谷川でございます。

私から、教科書採択に係るこれまでの経緯と今後の流れ等について、説明いたします。

それでは、まず、札幌市教科用図書選定審議会における調査研究及び審議の経過について説明いたします。

本年度は、小学校用、小学校と兼ねている義務教育学校前期課程用、高等学校用、高等学校と兼ねている中等教育学校後期課程用及び、特別支援教育用教科用図書の採択替えを実施いたしますことから、去る5月24日に開催されました令和5年度札幌市教科用図書選定審議会総会におきまして、令和6年度から使用する小学校用教科用図書、義務教育学校前期課程用教科用図書並びに高等学校用教科用図書、中等教育学校後期課程用教科用図書及び特別支援教育用教科用図書の調査研究について諮問し、7月10日に審議会から調査研究報告書(答申)が提出されました。

この間、審議会の小学校部会並びに小学校部会と兼任している義務教育学校前期課程部会におきましては、1回の部会と7回の小委員会を、高等学校部会並びに高等学校部会と兼任している中等教育学校後期課程部会におきましては、3回の部会を、特別支援教育部会におきましては、4回の部会をそれぞれ開催し、5月15日の教育委員会会議において御決定いただいた「調査研究の基本方針」に基づいて調査研究が進められてきました。

次に審議会において、調査研究の対象とした図書について御説明いたします。まず、小学校用教科用図書及び義務教育学校前期課程用教科用図書についてでございますが、対象となるすべての教科用図書について調査研究をいたしました。

お手元にあります資料「調査研究報告書（答申）」には、本日審議する予定の種目ごとに、調査研究の対象となったすべての教科書についての調査研究結果が取りまとめられております。

なお、教科用図書のデジタル化に関してでございますが、今回は、小学校英語に限り、デジタル教科書を調査し、考慮の一事項と「することができる」こととなっております。詳細につきましては、外国語小委員会の調査研究の報告の際に触れさせていただきます。また、2次元コードにつきましては、どの教科においても直接の調査対象とはしておりません。

次に、高等学校用及び中等教育学校後期課程用の教科用図書についてでございますが、高等学校用の教科用図書は、学校の実態、学科や課程の特色、生徒の特性などを十分に考慮して、全日制・定時制の課程、学科・コースごとに採択することとなっております。

このため、各高等学校ではそれぞれ、校長を委員長とする教科書選定委員会を設置し、自らの学校で使用するものとして適切と考えた教科用図書を選んでおります。また、市立山の手支援学校高等部については、高等学校に準じた教育課程を編成しておりますことから、高等学校と同様の扱いとしております。審議会においては、主として、これらの各高等学校等が使用を希望する文部科学省検定済教科用図書を調査研究の対象としております。

次に、特別支援教育用教科用図書についてでございますが、特別支援教育用教科用図書については、障がいの種類や程度、発達の段階に応じて、児童生徒がもっている能力を最大限に発揮し、社会参加、自立を果たすことができるよう、教科の主たる教材として、北海道教育委員会の採択参考資料の対象となっている一般図書及び教科用図書選定審議会委員が推薦した、教育目標を達成するために適切と認められる一般図書を調査研究の対象としております。

また、市立札幌みなみの杜高等支援学校、市立札幌豊明高等支援学校及び、市立札幌北翔支援学校が、自校で使用を希望する一般図書を選んでおりますことから、これらも調査研究の対象としております。

次に、今後の教科書採択の流れについて御説明いたします。

本日で24日の2回の会議では、令和6年度から使用する小学校用教科用図書及び義務教育学校前期課程用教科用図書の採択に向け、札幌市教科用図書選定審議会の調査研究報告書（答申）の概要について、審議会小学校部会の各小委員会委員長から説明させていただきます。

教育委員の皆さま方には、適宜、質問、意見聴取を行っていただくとともに、調査研究報告書（答申）、教科書見本、市民意見や学校意見等も参考にご審議い

ただくこととなります。

その上で、8月3日の会議において、小学校用及び義務教育学校前期課程用につきましては、種目ごとに、札幌市で使用するに最も適切な教科用図書1種類を決定していただきます。

高等学校用、中等教育学校後期課程用につきましては、各学校の教育課程の実施に最も適切な教科書を、特別支援教育用につきましては、本市の特別支援教育において児童・生徒の状況に応じて使用するのに適切な教科書を決定していただくこととなります。

また、その上で、8月9日の教育委員会会議におきまして、3日間のご審議の結果を議案としてまとめ、継続して採択する中学校用教科用図書、その教科用図書と同様のものを使用する予定である義務教育学校後期課程用教科用図書、及び、中等教育学校前期課程用教科用図書を含めて議決していただく運びとなっております。

私からの説明は、以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○**檜田教育長** ありがとうございます。事務局説明がありましたとおり、教科書採択に向けては、本日を含めて、4回の教育委員会会議を開催して審議することとなります。4回の教育委員会会議のうち、選定のための審議は、本日と週明けの24日（月）及び8月3日（木）の計3回で行い、その結果を受けて、8月9日（水）の4回目で採択する運びとなります。前半3回の選定のための審議の流れについてですが、まず第1段階といたしまして、選定審議会小学校部会の各小委員会委員長から、答申に関する説明をいただき、それについての質疑応答をするとともに、小委員会委員長から意見聴取を行ったうえで、教育委員会会議として、種目ごとに選定の候補とする教科書を2～3者程度にしぼることといたします。

1回目の本日は、音楽、図画工作、社会、算数、生活の順に、5つの小委員会を対象とし、2回目の24日（月）は、国語、理科、家庭、体育、道徳、外国語の順に、6つの小委員会を対象とすることとしたいと思います。

そして、3回目の8月3日（木）に、第2段階といたしまして、第1段階で選定の候補とした各種目の教科書の中から、最終的に種目ごと1者を選定いたします。

なお、高等学校部会、高等学校部会と兼ねている中等教育学校後期課程部会及び、特別支援教育部会については、選定の候補があげられておりますので、8月3日（木）の教育委員会会議において、調査研究報告書（答申）の説明を受けた

上で、審議することとしたいと思います。みなさん、このような流れでよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○**檜田教育長** それでは、このような流れで、小委員会ごとに審議を進めていきます。まず、各種目の審議に入る前に、教科書採択の任を負っている私たちは、札幌市の教科書採択の公正・中立性をしっかりと確保しなければなりません。私から委員の皆さんに、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

(「なし」と発言する者あり)

○**檜田教育長** ただ今、みなさんから「影響力の行使や圧力等はなかった」との回答をいただきましたので、私たち5人による協議は、教科書採択の公正・中立性を確保しうるものであると判断いたします。

○**檜田教育長** では、審議に入ります。まず、「音楽」から始めます。審議を始める前に、私から小委員会委員長に、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

(「なし」と発言する者あり)

○**檜田教育長** それでは、音楽小委員会の委員長、調査研究報告(答申)の説明をお願いいたします。

○**音楽小委員会委員長** 小学校部会音楽小委員会委員長の山田でございます。

今回、調査研究の対象となったのは、「教出」「教芸」の2者、合計12点の教科書です。これらについて、教育委員会が定めた調査研究の基本方針に基づき、音楽小委員会において、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりました。

まず、調査研究の観点Aである、北海道教育委員会が作成しました「採択参考資料」を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。

採択参考資料のインデックス〔音楽・採択参考資料〕の音楽2ページをご覧

ください。ここから、音楽8ページまで調査研究結果を示しております。

音楽7ページをご覧ください。様式4の①、取り扱われている各領域の教材の数から「A表現(3)音楽づくり」の分野について特長が見られました。教出は、6年間で合計60教材、教芸は6年間で合計40教材となっております。教出においては、特に第1学年における取扱いが多いという特長が見られました。スクリーンを御覧ください。教出1年38ページ「どれみふあそのおとであそぼう」のような音を選択するだけの簡易なものや、50ページ「ねこのなきごえであそぼう」のような音遊びを通して、音楽づくりの発想を得るものなど、音楽づくりの活動に取り組める教材を多く掲載しており、音楽づくりへの抵抗感をもちにくくする工夫がなされておりました。

次に同ページの下段、様式4③北海道と関わりのある内容を取り上げている資料等の数にも特長が見られました。教出は6箇所、教芸は10箇所の掲載がありました。特に、教芸5年26～27ページには、札幌コンサートホールKitaraと札幌交響楽団の演奏の様子が見開きの写真で掲載されております。6年16ページも同様に札幌コンサートホールKitaraと札幌交響楽団の演奏の様子が掲載されており、札幌市のすべての小学校が6年生で参加する「Kitaraファースト・コンサート」と関連を図った学習活動が可能な内容となっております

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」について説明いたします。インデックス〔音楽〕の音2を御覧ください。音楽においては、5つの具体項目について調査研究いたしましたが、そのうち、1の(1)「表現領域における課題探究的な学習活動の取扱い」、2の(1)「豊かな人間性や社会性を育む学習活動の取扱い」について、各者の特長がみられましたのでご説明させていただきます。

音3ページをご覧ください。1の(1)「表現領域における課題探究的な学習活動の取扱い」についてご説明いたします。教出については、全学年にわたって「まなびナビ」というコーナーが掲載されております。4年30～31ページをご覧ください。「ゆかいにあるけば」のように、学習活動の見通しや手順が示されることによって、表したいイメージと音楽表現を関わらせながら思いや意図をもつことができるよう工夫されています。

4年39ページをご覧ください。カエルのキャラクターが全学年にわたって掲載されており、既習の教材と関連付け、学習内容を振り返るよう促しています。

また、5年13ページ「こいのぼり」をご覧ください。旋律の特徴の一つである「タッカ」のリズムのよさや面白さを感じ取ることができるように、リズムを

手で打ったり、友達と手を取り合い上下に振ったりしながら歌う活動が提示されており、リズムのよさや面白さを生かして表現を工夫する学習活動が可能な内容となっています。

教芸については、全学年を通じて「考える」「見つける」「歌う、演奏する、つくる」の三種類のアイコンによって、課題をもつことができるように配慮されています。4年31ページ「ゆかいにあるけば」を御覧ください。「考える」のアイコンを活用することで、思いや意図をもちながら音楽表現を高める学習活動が可能な内容となっています。また、「ゆかいにあるけば」から始まる題材構成では、それに続く器楽、鑑賞、歌唱においても、「旋律」について学習する構成となっています。題材の最終ページである37ページのように、題材ごとに振り返りを促す記述があり、学んだことを確かめることができる構成となっています。

次に、3年生42ページ「ふじ山」をご覧ください。「ふじ山」では、曲の盛り上がりについて山のイラストで示されており、旋律の特徴が生み出す良さを感じ取りながら、曲の盛り上がりを生かして表現を工夫する学習活動が可能な内容となっています。

この項目についてまとめますと、教出は、子どもの気づきを大切にした学習が可能であるという特長があり、教芸は、アイコンを活用することで、子どもの課題意識を引き出し、見通しをもちながら学習をすることが可能であるという特長があります。

次に、インデックス音楽の音5ページ、2の(1)「豊かな人間性や社会性を育む学習活動の取扱い」についてご説明いたします。

教出では、第2学年から第6学年の巻末に「音楽を表すいろいろな言葉」が掲載されています。4年80ページをご覧ください。音楽の特徴を表す言葉や音楽の感じを表す言葉が例示されています。この「おんがくをあらわすいろいろな言葉」は学年が上がり、子どもの発達の段階に合わせて数が増えていくことも特長となっております。

教出3年28ページをご覧ください。「いろいろな声で表現しよう」では、「ヤッホー」という声の出し方を工夫して呼びかけ合ったり数人で声を重ねたりする活動を通して、友達と共に音楽活動をする楽しさを味わうことができる内容となっています。

教芸では、1年から4年まで「そだてよう」というマークで音楽の力を育てるために繰り返し行う活動が提示されています。3年9ページをご覧ください。その多くがペアやグループで活動できるよう工夫されており、協働して音楽活動

をする楽しさを味わうことが可能な内容となっています。

教芸3年58ページをご覧ください。「クロックミュージック」では、4人一組で行う音楽づくりの活動があり、音の重ね方やつなげ方を鳴らして試したり、話し合ったりすることで、音や言葉でのコミュニケーションが生まれる内容となっています。こちらについても、協働して音楽活動をする楽しさを味わうことが可能な内容となっています。

以上、答申の概要について説明させていただきました。

○**檜田教育長** ありがとうございます。それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○**阿部委員** 札幌では6年生がK i t a r aファースト・コンサートで鑑賞体験を行います。教芸では札幌コンサートホールK i t a r aや札幌交響楽団の写真を使っており、一方で教出ではそういった写真が使われていないことで、授業の進め方に影響が出ることは考えられるでしょうか。

○**音楽小委員会委員長** ご指摘のとおり、教出では写真は掲載されていないものの、オーケストラの響きや楽器の構成といった内容は学習できる教材がついております。よって、写真の有無により学習内容に影響は出ないものと考えておりますし、大きな問題もないものと認識しております。

○**阿部委員** ありがとうございます。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。

○**佐藤委員** 教出では、3年生から日本音楽というのが取り上げられていますが、日本の音楽の取り上げ方について、両者に特長はあるでしょうか。

○**音楽小委員会委員長** わらべ歌というものが両者とも1年生の教科書に掲載されております。その取り上げ方には若干の違いがありまして、教芸はわらべ歌、和楽器、箏などの取り上げが多く、教出は様々な伝統的な音楽の写真や演奏形態が取り上げられております。そういった点から大きな違いは無いものと認識しております。

○佐藤委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○石井委員 教芸の3年生の教科書で「ふじ山」について、曲の盛り上がりイラストで示されており、視覚によってその盛り上がりを確認して表現を深めることができるという説明でしたが、同社の4年生の50ページや59ページにおいても、楽譜以外で表現されていることが多いことから、これらは教芸の特長と捉えてよいでしょうか。

○音楽小委員会委員長 ふじ山については、共通教材であることから、両者の違いがわかりやすいものとして例を挙げさせていただきました。

音楽の様子を楽譜だけで理解をすることに抵抗感を覚える児童への対応として、様々な形、図やイラストを頼りにしながら音楽活動を進めるということに関しては、両者ともに多く取り上げられているものと認識しております。

○石井委員 教出では該当ページはどちらになるでしょうか。

○音楽小委員会委員長 委員のご質問内容からはややずれるかもしれませんが、教材の「剣の舞」について、リズムそのものは正確には記載されていないものの、音の動きを丸と棒で繋げて表したり、初めの旋律を細かな三角形で表したりといった表現が用いられております。

○石井委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○中野委員 楽器の使い方について、両者の差はあるでしょうか。

○音楽小委員会委員長 小学校の音楽というと、おおよそがリコーダーもしくは鍵盤ハーモニカを思い浮かべられると思うのですが、例えば、息の吹き方について、シャボン玉を作るようする、ホースの水の出し方見立てるといった違いはありますが、大きな差はありませんでした。

その他の打楽器類の取扱いについては、ほとんど差は無いものと認識してお

ります。

○中野委員 両者ともに箏について触れられていますが、実際に使用している学校はあるのでしょうか。

○音楽小委員会委員長 和楽器を必修としているのは中学校からとなり、小学校には無いものとなります。パートナー校において、中学校側で使用していない時期に小学校が借り受けるといったことはあると思います。

○中野委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 私からも質問があるのですが、音楽の教科の目標の中に、学齢が進むごとに主体的に音楽に関わっていくこととしていますが、多様な音楽とのふれあいといった特長があれば教えてください。

○音楽小委員会委員長 教出の6年の56ページをご覧いただきたいのですが、心と心をつなぐ音楽として、ストリートピアノが示されており、また、コロナ禍におけるオンラインで子どもたちの声や音をつなぐといった、離れていても心は繋がっているということが取り上げられています。併せて、右上の部分では宮城県の震災で、がれきの中から発見されたピアノが紹介されているなど、様々な地域の出来事も含め、自分たちの生活とどういった繋がりがあるかを示しております。

一方、教芸は5年生の表紙の裏部分になりますが、音楽と社会を繋げるテクノロジーとして、様々な音楽の楽しみ方や分身ロボットが繋ぐことを提示しております。6年生の24ページでは著作権に関して掲載されております。そのほか、43ページには、音楽の持っている力や役割として、野外ライブの様子、震災時の子どもたちがメッセージを伝える際の写真や遠く離れた地域の様々な演奏家が音楽を奏でて動画配信をする様子などが掲載されております。

○檜田教育長 ありがとうございました。他はよろしいでしょうか。

○檜田教育長 それでは、音楽は、対象となる教科書が教出と教芸の2者ですので、2者とも選定の候補とし、8月3日（木）に引き続き審議を行い、1者を決定するというところでよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○**檜田教育長** では、そのようにいたします。音楽小委員会の委員長、ありがとうございました。

○**檜田教育長** 続きまして、「図画工作」について、審議を行います。

その前に、私から小委員会委員長に、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

(「なし」と発言する者あり)

○**檜田教育長** それでは、図画工作小委員会の委員長、調査研究報告(答申)の説明をお願いいたします。

○**図画工作小委員会委員長** 小学校部会、図画工作小委員会委員長の富波でございます。

今回、調査研究の対象となったのは、開隆堂、日文の2者合計12点の教科書であります。これらの教科用図書について、教育委員会が定めた基本方針に基づき、図画工作小委員会において、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりました。

まず、調査研究の観点Aである、北海道教育委員会が作成しました「採択参考資料」を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。

インデックス〔図画工作・採択参考資料〕の図画工作8ページをご覧ください。様式5の「北海道とかかわりのある内容の具体的な内容」について、各教科用図書の特長がみられました。2者ともに、4点ずつ北海道の内容を取り上げております。該当箇所を画面に映しますので、画面をご覧くださいながらお聞きください。

開隆堂は、札幌市の学校の実践が2点と、モエレ沼公園にある「イサムノグチの作品」、美唄にある「安田侃の作品」が掲載されておりました。

日文は、札幌駅にある「安田侃の作品」と札幌市の全小学校で取り組んでいる札幌芸術の森美術館の「ハロー！ミュージアム」、糠平湖の「アイスバブルの写真」、アイヌの織物「アットゥシ」が掲載されておりました。

開隆堂においては、低学年・中学年・高学年において取り上げられているのが特長となります。

日文において、札幌市の取組である「ハロー！ミュージアム」、そしてアイヌの織物「アットゥシ」が取り上げられているのが特長と言えます。

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」について説明いたします。答申〔図2〕ページをご覧ください。

図画工作においては、ここにありますように、計5項目について調査研究を実施いたしました。そのうち、1の(1)「課題探究的な学習活動の取扱い」と、3の(2)「国際性を育む題材の取扱い」については、各者の特長が見られましたのでご説明させていただきます。

答申〔図3〕ページをご覧ください。まず、1の(1)「課題探究的な学習活動の取扱い」について説明いたします。

この調査項目では、特長のあった題材と巻末資料に分けて説明いたします。まず題材についての特長から説明いたします。

初めに開隆堂ですが、5・6年下の48ページ「ドリームカンパニー」をご覧ください。この題材は、創造した夢の新製品を考えたり表現したり、それを会社として発表したりする工作の題材で、友達と協力し、互いのアイデアを生かしながら主体的に取り組むことが可能な内容となっております。

続きのページには、子どもが作った様々な参考作品が掲載されており、発想や構想をする際の参考にすることができます。

次に日文ですが、5・6年下の34ページ「言葉から想像を広げて」をご覧ください。この題材は、詩や物語から感じたイメージを絵に表す題材で、例示された参考作品を鑑賞し、そこに書かれた作者の思いや工夫した点を参考にしながら、自己対話を繰り返し、自分の表現を探求することが可能な内容となっております。日文では、このように詩や短歌、物語などの言葉から想像を広げて絵を表す題材が、発達段階に応じて、全学年に設定されているのが特長です。

次に、巻末資料についての特長です。

開隆堂では、全学年の巻末資料に「タブレットたんまつを使おう」と「ひらめきショートチャレンジ」というページがあります。こちらの画面を見ながらお聞きください。

「タブレットたんまつを使おう」では、鑑賞したり調べたり発表したりする際のタブレットの活用例、次のページの「ひらめきショートチャレンジ」では、発想や構想のトレーニングといった目的で、短時間で取り組める資料が掲載されており、様々な学習において、関連させて活用できる内容となっております。

次に日文ですが、全学年の巻末資料に「アート・カードを楽しもう」というページがあります。アート・カードというのは美術作品を印刷したカードのことを

言うのですが、それを並べて、どこがどのように似ているかを交流し合う活動が紹介されています。5・6年上には、このように実際に切り離して使えるアート・カードも付属しています。

いずれも、発達段階に応じて、友達と対話しながら造形的な視点で楽しく鑑賞できる内容となっています。

このように、日文は、先ほどの題材においても「発達段階に応じて全学年に設定する」といった特長がありましたが、こちらの巻末資料においても、同様に「発達段階に応じた資料の設定」が見られました。

それでは、次の項目に移ります。答申〔図7〕の3の(2)「国際性を育む題材の取扱い」をご覧ください。

この項目の具体的な調査研究内容は、「図2」のページにあります調査研究項目にありますとおり、「日本や諸外国の伝統や文化などの多様な文化や価値観に触れる学習活動が可能な内容となっているか」となっており、調査対象を日本と諸外国としております。

諸外国の作品については、2者ともに、外国の子どもの作品を掲載したり、諸外国の、例えばピカソやミロといった芸術家の作品を鑑賞題材に取り上げるなどの特長がありました。

これに対して、日本の伝統や文化の取扱いにおいては、2者の特長がそれぞれにありましたので例を挙げて説明いたします。

開隆堂5・6年下の36ページ「墨の達人」をご覧ください。

この題材は、筆以外にもスポンジや段ボール等の用具を使って自由に表現するところが特長です。さらに、次のページには、いわゆる伝統的な「水墨画」を鑑賞する題材が設定されており、表現と鑑賞を関連させて学習を進めることが可能な構成となっています。

同じ教科用図書24ページ「小さな美術館」には、浮世絵や屏風絵、襖絵などが紹介されており、そのよさや美しさを味わうことができる内容となっています。また、巻末資料としては、3年から6年の教科用図書に「みんなのギャラリー」という資料があり、日本の伝統工芸などが紹介されています。

例として5・6年下の56ページをご覧ください。ここでは、硯や蒔絵、拵などが紹介されています。

次に、日文について説明いたします。

5・6年下の18ページ「墨と水から広がる世界」をご覧ください。開隆堂にも墨の題材がありましたが、こちらは筆と刷毛のみを使って、水の量や筆の使い方工夫して表現する題材となっています。

巻末資料の58ページには、用具の使い方や様々な表現の仕方が紹介されており、比較的伝統的な墨の表現方法を基本とした構成となっております。

続いて38ページ「教科書美術館：受け継がれてきた形」をご覧ください。

屏風絵や友禅染、和菓子などの日本各地で受け継がれてきた美術作品や伝統工芸などが紹介されており、そのよさや美しさなどを味わうことができる内容となっております。

右のページを開くと「もようから見つけて」という題材が設定されており、伝統的な繰り返しの模様を鑑賞したり、自分で模様をつくって作品にする内容となっております。見開きの外と中を行ったり来たりして、表現と鑑賞を関連させながら学習することが可能な構成となっております。

この他にも28ページをご覧ください。この「焼き物」の題材では、右下に地域ごとの伝統的な焼き物が紹介されるとともに、実際に生活の中で使用する焼き物をつくる内容となっております。

さらに、59ページには、和紙の作り方や、和紙が使用されている線香花火や張り子などが紹介され、日本の伝統や文化に触れる学習活動が可能な内容となっております。

以上、図画工作小委員会の調査研究について説明させていただきました。その他の特長につきましては、お手元の資料をご覧ください。どうぞ、よろしく願います。

○**檜田教育長** ありがとうございます。それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○**阿部委員** 課題探究的な学習の取扱いについてお伺いしたいのですが、開隆堂のドリームカンパニーでは、「あったらいいな」という思いを作品にするところが特長だと感じましたが、一方で日文は既存の詩や短歌、物語を題材に想像して作品にするところが特長となっており、二者に大きな違いがあるものと感じました。日文は子どもたちがもともと知っている詩や短歌を題材にしているのでしょうか。

○**図画工作小委員会委員長** 知っているものもそうでないものもありますが、選択できるということが特長となっております。

○**阿部委員** 選択というのは子どもたちが選択できるということでしょうか。

○**図画工作小委員会委員長** 題材にもよりますが、選択できるものもあれば、「さるかに合戦を読んで」といった特定の題材が掲載されているものもあります。

○**阿部委員** わかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。

○**佐藤委員** 両者とも他教科とのつながりについて、ページ右下に記載がありますが、つなげ方に違いがあれば教えてください。

○**図画工作小委員会委員長** 開隆堂については、教科と内容について記載がされており、日文については教科のみの記載となっております。

○**佐藤委員** わかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。

○**石井委員** ドリームカンパニーにおいて材料を用意するとなった場合、各家庭で用意するのか、もしくは学校側が準備するのか、小委員会で話題になったことがあれば教えてください。

○**図画工作小委員会委員長** 小委員会の中では、特段そういった話題は上がりませんでした。ただ、材料に関しては、子どもたちが自分の表現したい内容を考えて、自分で材料を探すということが学びにつながるものだと考えますし、子どもたちが用意するのが難しいものに関しては、可能な範囲で学校側が準備することもあるかと考えます。

○**石井委員** 日文に関しては、言葉から発想させることについて、各学年設定されているところですが、こちらはものを作るというよりは、絵で表現をすることになるのでしょうか。

○**図画工作小委員会委員長** お見込みのとおりであると認識しております。

○石井委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○中野委員 両者ともに、教科書に掲載されている写真のような作品を子どもたちが作ることは、相当に困難なことだと思われそうですが、作品の実現性という点では差があるのでしょうか。

○図画工作小委員会委員長 教科書に掲載されている作品については、あくまで参考ということになります。また、小委員会内におきましても、そういった話題は上がりませんでした。

○中野委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 私からも質問があるのですが、図画工作の教科の目標の中にある、日常生活や社会の中にある形に対する気づきを豊かにしていくということについて、教科書の中で工夫している取り組みなどがあれば教えてください。

○図画工作小委員会委員長 両者ともに意識されておりますが、特に低学年では多く取り上げられているものと認識しております。例えば、ざらついた場所やガタついた場所にペーパーをあてながら模様を集め、作品として構成することや、ペットボトルを題材に作品を作るといった取組があります。

○檜田教育長 ありがとうございました。他はよろしいでしょうか。

○檜田教育長 図画工作は、対象となる教科書が開隆堂と日文の2者ですので、2者とも選定の候補とし、8月3日（木）に引き続き審議を行い、1者を決定するというところでよろしいでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○檜田教育長 では、そのようにいたします。図画工作小委員会の委員長、ありがとうございました。

○**檜田教育長** 続きまして、「社会」と「地図」について、審議を行います。

その前に、私から小委員会委員長に、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

(「なし」と発言する者あり)

○**檜田教育長** それでは、社会小委員会の委員長、まずは社会の調査研究報告(答申)の説明をお願いいたします。

○**社会小委員会委員長** 小学校部会社会小委員会委員長の石川でございます。

今回、社会において調査研究の対象となったのは、「東書」「教出」「日文」の3者、合計14点の教科書であります。これらの教科用図書について、教育委員会が定めた調査研究の基本方針に基づき、社会小委員会において、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりました。

まず、調査研究の観点Aである、北海道教育委員会が作成しました「採択参考資料」を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。採択参考資料のインデックス〔社会・採択参考資料〕の社会10ページを御覧ください。10ページから16ページの別記様式4の調査項目③〔アイヌの人たちの歴史・文化等を取り上げている箇所〕については、東書21箇所、教出25箇所、日文8箇所となっており、東書、教出の教科書に取扱いが多いという特長が見られました。「アイヌ民族に関する学習の取扱い」については、調査研究の観点Bにおいても調査を進めており、掲載が多い東書、教出については、取り扱いの箇所や内容の違いは多少ありますが、大きな差はありませんでした。

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」について説明いたします。答申のインデックス〔社会の社2ページ〕を御覧ください。社会においては、No.1からNo.3の6項目について調査研究を実施いたしました。

そのうち、1の(1)「課題探究的な学習の取扱い」、1の(2)「資料の取扱い」について、特に、各教科書の特長がみられましたので、ご説明させていただきます。

最初に1の(1)「課題探究的な学習の取扱い」についてです。こちらは答申の〔社3ページ〕を御覧ください。どの教科書も、「つかむ」「調べる」「まとめる」といった子どもの学習過程は共通であるものの、学習の見通しのもたせ方に特長がありました。小委員会での調査のポイントにつきましては、子どもが見通

しをもつとともに、主体的に学びを進めることができる単元の構成となっているかどうかという点です。

では、その観点から御説明いたします。

まずは、東書5年下10・11ページを御覧ください。具体的な例をもって御説明いたします。10・11ページ「つかむ」の場面において、地図やグラフなどの資料から日本の自動車づくりの現状についての話し合いをもとに単元の学習問題をつくる活動が示されております。この単元の学習問題の解決に向けて、教出や日文については、その後、ページ数順に扱うことを想定した構成となっておりますが、東書では、14ページから21ページにある「調べる」ページを、子どもの学習計画に沿って、選択して活用できる構成となっており、全学年において、課題解決に向けて、子どもが主体的に学びを進めることができるよう工夫された構成となっております。このような構成となっているのは東書のみとなっております。

次に、教出については、6年220・221ページを御覧ください。具体的な例をもって、御説明します。第6学年「平和で豊かな暮らしをみざして」では、「この時間の問い」に「戦争が終わったころ、人々はどのような暮らしをしていたのだろう」という発問が示され、子どもが課題を捉えて学習を進めていくことができるとともに、「次につなげよう」では「戦争が終わったあと、どのような社会が目ざされたのだろう」と掲載され、次の学習への見通しをもつことができるよう構成されています。全学年において、「この時間の問い」と「次につなげよう」が見開きごとに掲載され、毎時間のつながりが示された構成となっており、問いの解決を目指す学習内容と次の時間への見通しをもつことが可能な構成となっています。

日文については、3年132・133ページを御覧ください。具体的な例をもって御説明します。第3学年「うつりかわる市とくらし」では、左ページ脚注に、身に付けたい力について、インデックスが設けられ、「問題を発見する力を身につけよう」が記載されているページには、学習問題について「学習の計画」を立てる場面を設定し、「調べたいこと」「調べたい時期」「調べ方」「まとめ方」について予想し、その予想をもとに、単元の学びを進めるよう促しています。全学年において、身に付けたい力と、問題の解決を目指す学習過程が対応して記載されており、単元の学習問題の解決へ見通しをもって学ぶことが可能な構成となっています。

次に、答申〔社4ページ〕をご覧ください。1の(2)「資料の取扱い」について、特に、各教科書の特長が見られましたので御説明させていただきます。こ

の観点では、資料から、社会的事象の見方・考え方を働かせ、必要な情報を選択し、社会的事象の特色や意味を理解する学習活動が可能な内容となっているかについて調査しました。ポイントは、子どもが社会的事象の見方・考え方を働かせるような工夫がなされているかどうかという点です。

東書については、5年上72ページを例に御説明しますので、御覧ください。第5学年「暮らしを支える食料生産」では、農産物における生産額の推移を示したグラフと、タイムマシンに乗ったドラえもんセットになった変化に着目させる投げかけが記載されており、子どもが時間の経過に着目しながら、生産額の推移を考察することが可能な内容となっています。

全ての学年において、資料を読み解くためのヒントとなる見方・考え方を示したドラえもんのマークが使用され、子どもが見通しをもって、見方・考え方を働かせることが可能な構成となっています。

教出については、5年64・65ページを例に御説明しますので、御覧ください。第5学年「米づくりのさかんな地域」では、見開き1ページに、山あいの水田、都市部の水田など、日本各地の様々な水田の様子が大きく掲載されており、土地の広がりに着目し、日本の土地の様子を生かした米づくりについて追究していくことが可能な内容となっています。このように、全体を通して、学習の導入部分では、ページ全体を使用した写真資料が掲載され、工夫された資料の読み取りを通して、子どもが見方・考え方を働かせることが可能な構成となっております。

日文については、5年24・25ページを例に御説明しますので、御覧ください。第5学年「日本の地形や気候」では、衛星写真が掲載されており、日本の梅雨や台風時における雲の様子と天気の関係について、関係付けて考えることが可能な内容となっています。全体を通して、見開きに掲載されている学習資料が多く、子どもが資料を選択して読み取っていくことを通して、見方・考え方を働かせることが可能な内容となっております。

このように、教出、日文は資料の工夫によって、見方・考え方を働かせるようにしており、東書はドラえもんのマークと資料を合わせて読み取ることで、見通しをもって、見方・考え方を働かせるようにしているといった特長が見られました。

以上、社会の答申の概要についてご説明させていただきました。

○**檜田教育長** ありがとうございます。それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○佐藤委員 「つかむ」「調べる」「まとめる」については、東書も教出も変わらず、東書のみが「調べる」以降、子どもたちが調べる内容を選択できるというところが異なるという理解で良いでしょうか。

○社会小委員会委員長 お見込みのとおりとなります。

○佐藤委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○石井委員 教出は学習の導入部分においてページ全体で写真を大きく使うことや、白黒写真をカラー化するなどの工夫がありますが、それらの取組は子どもたちの興味を引く、もしくは授業の導入がしやすいといったことはあるでしょうか。

○社会小委員会委員長 6年生の212ページの掲載写真は戦時中のものであり、また、別のページには戦後の写真もカラーで掲載されております。それらの写真からは子どもたちの表情や服装、背景が鮮明に読み取れることから、それらを比較することで新たな問いを生み、探究することができると小委員会でも話題となりました。また、4年生の114ページには阿波踊りの写真が掲載されているのですが、踊り子の表情や見物人の様子など、地域が一体となって伝統文化を守り受け継いでいくことが読み取れ、それを足掛かりに、子どもたちが様々な問いを持ち、その後の学習を進めていくことができるという特長が表れております。

○石井委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○阿部委員 佐藤委員の質問と関連しますが、東書のみの特長のある「調べる」以降の子どもたちが個別に調べる内容について、大きな特長ではあると思うのですが、教師の視点からすると、様々な選択があることによるゴールの設定はどうされるのでしょうか。

○**社会小委員会委員長** 三者ともに学習指導要領に基づいて作成されていることから、単元の目標は変わらないものとなります。ただ、教科書の構成によって、教師側が授業のあり方を考えていくことが求められるものと思います。

教出を例にとりますと、見開きページにおいて、「この時間の問い」と「次につなげよう」を一時間の授業でしっかりと学習し、積み上げを行うことで目標に向かうという構成になります。これは、各授業の入り口と出口を示すことによって、子どもたちが次の授業の見通しを持つことなどが可能となっております。発行者によって構成に違いはあるものの、学習のゴールは、いずれも変わらないものと小委員会では位置付けたところです。

○**阿部委員** わかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。

○**中野委員** 5年生で見ますと、東書は2冊に分かれており、教出と日文は1冊になっているなど、出版者ごとに力の入れ具合に差があるように感じるのですが、各出版社において力を入れている学年の違いなどはあるのでしょうか。

○**社会小委員会委員長** 自然災害や防災を例として挙げますと、教出と日文は選択単元になっており、事例を扱う数が異なっております。具体的に申し上げますと、教出では震災や雪害を含む計33ページに渡って地震・水害などが掲載されており、日文では広島豪雨・西日本豪雨を含む計39ページに渡って風水害・地震・雪など選択単元としております。東書では、4年生で自然災害を20ページ、6年生で東日本大震災を10ページに渡って掲載しております。

それらにより、ページ数の厚さに違いはありますが、事例数が異なるだけであり、掲載ページ数が少ないから内容も薄いという訳ではありません。

○**中野委員** 東書では事例に雪害が取り上げられていないことから、何かしら理由があってページを省いたものかと考えたのですが、大きな違いは無いということがわかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 私からも質問があるのですが、調査項目の社7において、札幌らしさを活かした学習活動の推進があります。子どもたちが身近である住んでいる地域を通して、世界や日本の各地域に関することを学んでいくことはとて

も大事だと考えますが、札幌を取り扱っているものやその学びについて、小委員会の中で話題になったものはあるでしょうか。

○**社会小委員会委員長** 東書から説明させていただきます。5年生上の58・59ページ「寒い土地の暮らし」をご覧ください。札幌市の雪対策と雪を活かした観光について、現在の札幌の現状、雪対策担当者の話、利雪・克雪その両方の面から写真やグラフなどの資料を通して学びを進めることができる作りとなっております。続きまして、教出の6年生58ページ及び63ページをご覧ください。「雪と共に生きる暮らしを支える政治」の学習単位となります。こちらでは6ページに渡って札幌市の除雪対応や市民の暮らし、行政の働きを関係づけて取り上げられております。日文においては記載されているものはありませんでした。

○**檜田教育長** ありがとうございます。他はよろしいでしょうか。

○**檜田教育長** それでは、社会は、対象となる教科書が東書、教出、日文の3者ですので、3者とも選定の候補とし、8月3日（木）に引き続き審議を行い、1者を決定するというところでよろしいでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○**檜田教育長** では、そのようにいたします。社会小委員会の委員長、地図の調査研究報告（答申）の説明をお願いいたします。

○**社会小委員会委員長** では、地図について説明させていただきます。

調査対象となったのは、東書と帝国の2者、合計2点の教科書であります。

まず、調査研究の観点Aの採択参考資料についてです。採択参考資料のインデックス〔社会・採択参考資料〕の地図6ページをご覧ください。様式4の調査項目②「自然災害に関する内容を取り上げているページ数」について、各教科書の特長がみられました。

東書は、12ページの取扱いがありました。特に、特長が見られた97～99ページをご覧ください。

「日本の自然災害」のページにおいて、3ページを使って見開きになるように掲載されており、写真資料と関連させて、国内の自然災害について把握することが可能な内容となっております。

帝国は自然災害に関する内容を取り上げているページが、21ページありました。特に特長が見られた101・102ページをご覧ください。「日本の自然災害と防災」を取り上げたページにおいて、イラストを豊富に掲載し、過去に日本で起きた主な自然災害や災害を防ぐ工夫、防災マップづくりなど、過去の災害事例と災害に備えた自分たちの行動の在り方について学ぶことができる内容となっています。

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」について説明いたします。答申〔社9〕ページをご覧ください。地図においては、ここにあります通り、具体項目の2項目について調査研究を実施いたしました。

まずは、1の(1)「地域社会の社会的事象に関わる教材の扱い」について、各者の特長が見られました点についてご説明させていただきます。

答申〔社10ページ〕を御覧ください。併せて、東書の51・52ページをお開きください。ほぼすべてのページに「ホップ、ステップ、マップでジャンプ」のコーナーがあり、北海道のページには「札幌市と旭川市の直線距離をはかろう」や「じゃがいもの多い平野はどこかな」などの問題を掲載しており、縮尺を活用したり、特産物に着目したりしながら、地域の特色を捉えることが可能な内容となっています。

次に、71ページにある「日本の産業～農業～」について御説明します。こちらは画面を御覧ください。

「②土地の利用とおもな農産物」の資料では、様々な作物の北限が示されており、気候に合わせた農業が展開されていることを捉える第5学年の学習と関連付けることが可能な内容となっています。

次に、地図帳が代わりまして、帝国の29・30ページをご覧ください。ほぼすべてのページに「地図マスターへの道」のコーナーがあり、北海道のページを見ると、「寒い地方ならではのスポーツ」や「札幌市から見た釧路の方角」などについての問題があり、地域の特色や有名な都市、方角に着目して活用し、位置や空間的な広がりを意識することが可能な内容となっています。また、スクリーンにお示ししますが、このページに加え、77～80ページも「北海道地方」の地図が開きで2ページずつ、計6ページにわたり掲載しており、各学年の学習内容と合わせて活用することが可能な内容となっています。

次に、1の(2)「資料の取扱い」について、ご説明させていただきます。答申の11ページを御覧ください。こちらはスクリーンにお示しして御説明しますので、答申の11ページと併せて御覧ください。

まず、東書の75・76ページを例に御説明します。資料地図では、テーマに

関連する資料が多く掲載されているとともに、資料同士を比較したり、関連付けたりすることができるよう配置が工夫されています。「日本の貿易」では、輸出・輸入に関する資料が並列に記載され、比較しやすく、特色を捉えることが可能な内容となっております。

地図帳が変わりまして、帝国の61ページについて御説明します。「自動車産業がさかんな愛知県」の地図では、工業がさかんな様子を、地理的な条件と関連づけながら捉えることが可能な内容となっております。地域をクローズアップしたページにより、工場がどのような場所に多いか、港や工場の位置関係など、詳細な情報を捉え、空間的な見方・考え方を働かせ、特色を捉えることが可能な内容となっております。

次に、55・56ページをスクリーンに映して御説明いたします。ここには、「江戸時代の結びつき」の資料が掲載されているなど、歴史の学習と関連付けて活用することも可能な内容となっております。

以上、地図の答申の概要についてご説明させていただきました。

○**檜田教育長** ありがとうございます。それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○**中野委員** 両者とも北海道について産地が示されていますが、生産額が多いものが示されているわけではないという理解でよろしいでしょうか。

○**社会小委員会委員長** 学習で取り扱われる特徴的なものだと考えられます。両社とも地図の後ろに統計が掲載されており、そちらに人口、面積、農産物などの特徴が記載されております。

○**中野委員** 余市にはぶどうの絵が記載されており、りんごよりも生産量は多くないと思うのですが、最近話題となっているものが記載されているということでしょうか。

○**社会小委員会委員長** 小委員会においてはそのように認識しております。

○**中野委員** わかりました。ありがとうございます。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。

○石井委員 帝国の55・56ページ「江戸時代の結びつき」については、これまでも掲載されていたものなのではないでしょうか。

○社会小委員会委員長 重要視されているということで、新たに掲載されたものとなります。

○石井委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○檜田教育長 それでは、地図は、対象となる教科書が東書、帝国の2者ですので、2者とも選定の候補とし、8月3日（木）に引き続き審議を行い、1者を決定するというところでよろしいでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○檜田教育長 では、そのようにいたします。社会小委員会の委員長、ありがとうございました。

○檜田教育長 ここで10分間の休憩といたします。

（休憩）

○檜田教育長 それでは、会議を再開いたします。

○檜田教育長 続きまして、「算数」について、審議を行います。

その前に、私から小委員会委員長に、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

（「なし」と発言する者あり）

○檜田教育長 それでは、算数小委員会の委員長、調査研究報告（答申）の説明をお願いいたします。

○算数小委員会委員長 小学校部会算数小委員会委員長の加瀬でございます。

今回、調査研究の対象となったのは、新たに文部科学大臣の検定を経た教科書、東書、大日本、学図、教出、日文、啓林館の6者、合計59点の教科書であります。これらの教科用図書について、教育委員会が定めた調査研究の基本方針に基づき、算数小委員会において、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりました。

まず、調査研究の観点Aであります、道教委が作成しました採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。採択参考資料、算数1ページから25ページまでの調査研究結果において、特に、様式2の使用上の配慮について、算数と日常の場面との関わりという視点から、東書、大日本、教出の3者に特長が見られましたので、ご説明いたします。なお、この説明につきましては、スクリーンにて御説明させていただきます。

こちらは、東書第5学年下の教科書（P64）となります。

「割合」の単元では、バスケットボールの試合に向けて、毎日シュート練習をするという日常の場面を取り上げ、シュートが一番よく成功したのは誰といえるかという問題において、入った本数のみの比較から、シュートを投げた本数にも着目できるような展開となっています。このように、二つの数量の関係に着目できるようにするなど、日常生活と学習場面を関連付け、学習することの意義や学習内容の有用性を実感できるように工夫されています。

次に、大日本第3学年上の教科書（P220）となります。

「重さを調べよう」の単元では、算数が実社会で生かされていることが実感できるよう、単元末に、子どもにとって身近な栄養教諭が、給食の食材をお店に注文したり、調味料の量を量ったりするとき、重さの計算をする例を挙げています。このように、第3学年以上においては、算数を生かして仕事をしている人へのインタビューを掲載しており、子どもの学習意欲を高める工夫がなされています。

続いて、教出第2学年上の教科書（P102）となります。

各単元末にある「学んだことをつかおう」では、単元において学習したことを日常の場面につなげて考えることができる活動を設けています。例えば、このページにある「夏休みの計画を立てよう」では、時刻と時間について学んだことを生かして、1日のスケジュールを立てる活動を位置付けるなど、算数と日常の場面との関連付けを図ることができる構成となっており、子どもの学習意欲を高める工夫がなされています。

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」について説明

いたします。答申のインデックス算数の〔算2〕ページをご覧ください。算数においては、No.1とNo.2の4項目について調査研究を実施いたしました。そのうち、1の(1)「課題探究的な学習の取扱い」と1の(3)「データの活用領域の取扱い」について、各者の長が顕著にみられましたので、ポイントを絞ってご説明させていただきます。

まず、1の(1)「課題探究的な学習活動の取扱い」についてご説明いたします。答申は、〔算3〕ページに掲載しております。東書第2学年下の教科書41ページをご覧ください。なお、スクリーンにも映しています。こちらは、かけ算の問題場面です。このページの上の部分をご覧ください。このように、図の一部を隠し、少しずつ問題提示していく工夫により、一つ分が、幾つ分あるのかという、かけ算につながる見方・考え方が働くように工夫されています。

続いて、日文第2学年下の教科書47ページをご覧ください。かけ算の問題場面では、「1つ分が同じでないとかけ算はつかえないね。」「1つ分をそろえるにはどうしたらいいかな。」と、子どもの困りに焦点を当てる言葉を掲載し、1つ分の数の大きさに着目することができるように工夫されています。

このように、東書、日文は、問題場面における工夫がなされていることによって、子どもが自ら疑問や課題をもって学習することが可能な構成となっております。

一方で、教出は、単元全体を通して、子どもの疑問や課題が連続してつながっていくように工夫されております。教出第5学年下の教科書72ページをご覧ください。こちらの「合同と三角形、四角形」の単元の導入場面では、橋の構造に使われている三角形に着目するとともに、角の大きさが違う三角形でもまっすぐに並べることができるのかという問題場面へとつなげ、73ページの「三角形の角の大きさには何かきまりがあるのかな。」と子どもから生まれる「はてな」から「三角形の3つの角の大きさには、どんなきまりがあるか調べましょう。」というめあてをつくる工夫がなされています。

続いて、75ページでは、「だったら、四角形の角にも同じように共通するきまりがあるのかな。」とあり、さらに、77ページでは、「だったら、角の数がもっと増えた図形でも…」とつなげていくなど、単元を通して、学びをつなげ、広げて考えることができるよう工夫されており、子どもが自ら疑問や課題をもつとともに、次の学習内容とのつながりを意識して、主体的かつ論理的に思考することが可能な構成となっております。

最後に、1の(3)『データの活用』領域の取扱いについてご説明いたします。答申は、〔算5〕ページに掲載しております。「データの活用」領域は、身の回り

の事象をデータから捉え、問題解決に生かす力、データを多面的に把握し、事象を批判的に考察する力の育成を目指しています。スクリーンをご覧ください。こちらは、「小学校学習指導要領解説 算数編」のデータの活用領域のページです。統計的な問題解決活動においては、「問題－計画－データ収集－分析－結論」というような段階からなる統計的探究プロセスを重視しております。

各者とも、それぞれ統計的探究プロセスを意図したページを掲載しておりましたので、ご説明いたします。スクリーンをご覧ください。学図第6学年の教科書（P 2 1 2）です。こちらは、「データの活用」の単元を通して、「環境問題」について取り扱う展開となっております。日にちごとの最高気温について、多くのデータがあり、分析したことを生かして、自分ならどのように考えるか、話し合う活動が設定されており、目的に応じて複数のデータを多面的に把握し、関連付けることが可能な構成となっております。

このように、取り上げている事例は違いますが、同じような構成となっているのが、東書、教出、日文でした。

特に教出においては、ドットプロット、度数分布表、折れ線グラフなど、分析する例が多く掲載されています。

一方、啓林館第6学年の教科書（P 1 1 9）です。

2ページの扱いではありますが、統計的探究プロセスに沿った学習を展開できるようになっております。

続いて、啓林館第5学年の教科書（P 2 1 2）です。

このように、第6学年だけではなく、第5学年の「割合のグラフ」の単元においても、統計的探究プロセスについて取り扱っていることが特長です。

同様に、第5学年で取り扱っているのは、大日本となっております。

以上、算数について説明させていただきました。

○**檜田教育長** ありがとうございます。それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○**石井委員** 現在、教出の教科書を使用しておりますが、小委員会や学校現場での意見がありましたら教えてください。

○**算数小委員会委員長** 他者と異なり顕著であったのは、「はてな」「だったら」など、問いが連続していくことを強く意識付けるという作りであるということが感じられました。現場の教員は、子どもたちが問題を課題としていかに強く捉

えることができるかが重要であると認識しておりますし、また、札幌市としても、に一ゴプロジェクトのように自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する学習が大切であるという認識だと考えております。これらの考え方・取組に対して、教出の教科書はマッチしているものだと思います。

○石井委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○阿部委員 東書においては、1年生の教科書の文字が大きいことから、分かりやすい印象があるのですが、小委員会内で意見などはあったでしょうか。

次に、教科書の練習問題の数について、同様に小委員会内で意見などはあったでしょうか。

最後に、札幌市の小学生における算数に関する課題を教えてください。

○算数小委員会委員長 東書に関しましては、1年生の教科書に別冊が付いていることから、配慮されているといった意見が小委員会内でも出ました。ただ、他者の教科書と内容について差異があるわけではものと認識しております。

続いて、練習問題の数に関しまして、小委員会内で特段の話題には上がりませんでした。

最後に、算数に関する課題に関しましては、子どもにとって得手・不得手が分かればやすいと昔から言われておりますので、現状もそういった側面を持っているのではないかと考えられますが、札幌市は学校現場を含め、子どもたちが自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する学習を進めることで、既習生かされ、喜びに繋がるというサイクルが大切であると考えています。ただ、テストの結果であったり、授業の内容であったりに差が生じるのであれば、学校はまだまだ努力をしていかなければならないものだと思います。

○阿部委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○中野委員 算数に対する興味として、なぜこういった概念が生まれたのかという歴史的な背景があるわけですがけれども、算数に成り立ちに対して説明やコ

ラム的なものは、各者違いはあるでしょうか。

○算数小委員会委員長 コラムとは異なるかもしれませんが、先ほど紹介をしましたかけ算数の問題で言いますと、掲載されている内容は比較的ポピュラーなものなのですが、子どもたちにどう考えさせていくかというところにポイントがあるものと考えています。似たような内容で、図形において欠けた多角形の面積を計算する際、2つの図形に分けて計算する方法もあれば、欠けた部分のあるものとして計算をした後、欠けた部分を引くという方法もあります。後者の考え方を培った子どもたちが、例えば 99×100 を計算する際、 100×100 を計算した後にとみて計算する 100×100 をした後に、 1×100 を引くという考え方に応用することが可能となります。同じ問題でも、算数において多角的な見方・考え方をする大切さの一例になるかと考えます。

○中野委員 自身が昔の教科書で、数学者の有名な学者が1～50までの合計を出す際の考え方が示されており、こういった発想があるのかと興味をもつきっかけになったことから、子どもたちも同様なのではと考え伺ったところで

○算数小委員会委員長 東書5年生下巻105ページに掲載されている内容に近いかと考えますが、このような内容が各者にて工夫されていると考えます。

○中野委員 掲載されている内容に差異は無いという理解でよろしいでしょうか。

○算数小委員会委員長 お見込みのとおりとなります。

○中野委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 私からも伺いたいのですが、全国学習状況調査における札幌の子どもたちが苦手としている部分として、「変化と関係」領域だと思いますが、その点における各者の取り上げ方について、子どもたちにとって、どの者が理解しやすいなど小委員会で意見が出ていたら教えてください。

○算数小委員会委員長 割合に関しましては、各者とも特に力を入れているもの

と考えますが、例えば、教育出版の5年生174ページになりますと、ボールの入った数と投げた数の問題に対して、一つの情報が埋まれば、順を追って考えていくと工夫がなされております。また、東書の5年生下64ページにおいては、3人の比較となっており、うち2人の結果を揃えて計算してみるなど、各者の工夫されている内容が委員会内で話題に上がりました。

○**檜田教育長** わかりました。ありがとうございました。

引き続き小委員会委員長にお聞きします。調査研究の観点Aに関して、学習指導要領を踏まえた採択参考資料からみた場合、特長が顕著な教科書はどの教科書になりますか。その理由と併せて、お聞かせください。また、調査研究の観点Bである「札幌市として設定する調査研究項目」において、特長が顕著であったのはどの教科書ですか。その理由と併せて、お聞かせください。

○**算数小委員会委員長** 調査研究の観点Aに関して、算数と日常の関りという視点において、特長が顕著な教科用図書は、「東書」「大日本」「教出」の3者となります。東書については、日常生活と学習場面を関連付け、学習することの意義や学習内容の有用性を実感できるように工夫されていること、大日本については、算数が実社会で生きることが実感できるように、算数を仕事に活かしている人へのインタビューを掲載しており、子どもたちの学習意欲が高める工夫がなされていること、教出については、学習したことを取り組める活動を単元末に掲載し、算数と日常の場面との関連付けを図ることができる構成となっており、子どもたちの学習意欲を高める工夫がなされていることが理由となります。調査研究の観点Bに関して、「東書」「教出」「日文」の3者となります。東書及び日文については、問題提示における工夫がなされていることによって、子どもたちが自ら疑問や課題を持って学習することが可能な構成となっていること、教出については、単元を通して学びを繋げ、広げて考えることができるよう工夫がされており、子どもたちが自ら疑問や課題を持つとともに、次の学習内容との繋がりを意識して主体的かつ論理的に思考することが可能な構成となっていることが、それぞれの理由となります。

○**檜田教育長** ただ今の意見によりますと、観点Aにおいて、特長が顕著であった教科書は、ただ単に数式を覚えるのではなく、子どもたちの日常生活と学びが結びついているという有用性を実感できることから、「東書」「大日本」「教出」ということでありました。観点Bにおいては、問題場面における工夫や、単元を

通した繋がりを持ち、子どもたちが自ら疑問や課題を持つことができることなどの理由から、「東書」「教出」「日文」とのことでした。これにつきまして、質問や意見がありましたらお願いします。

○中野委員 私は、「大日本」「東書」「教出」の順番が良いのではないかと考えます。大日本については、なるほど算数教室などの具体的な例が示されていることや全体的なバランスが良いように見受けられたこと、東書については、先ほどの回答でも色々と工夫をされていること、教出については、現在も使用しておりますし、本文に課題探究的な特長があるということが理由となります。

○石井委員 私は、「東書」と「教出」が良いのではないかと考えます。先ほど説明もありましたとおり、日常場面とリンクさせることで有用性を実感できること、自ら疑問や課題認識を持つことができるということが理由となります。また、先ほど檜田教育長から質問もありましたが、変化と関係の領域においても東書と教出に特長があったので、相応しいのではないかと考えます。

○阿部委員 私も「東書」と「教出」が良いのではないかと考えます。課題探究的な学習活動の取扱いにおいて、教出は全体的に算数に対する課題がある子どもたちに対しても、イラストや吹き出しなどを使用し、苦手意識を取り除くことや次の学習内容への繋がりが工夫されている作りになっていること、また、データの活用についても、統計的な探究プロセスが優れていること、東書については、データを使った生活を見直そうというところが長けていることが理由となります。

○佐藤委員 私も「東書」と「教出」が良いのではないかと考えます。全体的に甲乙を付けたがったのですが、阿部委員が仰ったとおり、教出は図解が多めで、見やすく効果的であるという印象があり、課題探究面でも次の学習内容との繋がりが意識できる構成となっていること、東書については配色や配置が落ち着いており、また、まとめがよい示唆を与えてくれているという印象を受けました。併せて、日常的な関りや課題探究面においても、教出と同様に工夫がなされていることが理由となります。

○檜田教育長 札幌の子どもたちにとって学ぶ意義という点からしますと、各者ともに工夫されているところではありますが、より身近な題材から算数の問

題を考えていくという点からしますと、「教出」「東書」が見やすいものではないと考えました。「大日本」に関してはいかがでしょうか。

○中野委員 どの委員も「大日本」を選択されなかったことに少し驚いておりますが、各委員の意見を尊重し、2者ということでも問題ありません。

○檜田教育長 大日本は日常的な関りという点からしますと、働いている方のインタビューが取り上げられておりますので、3者ともに残すというのはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○檜田教育長 それでは、委員の皆様の意見や小委員会委員長の意見を踏まえますと、「東書」「教出」「大日本」の3者に絞らせていただき、また、本日は、1者に絞り込むのではなく、引き続き調査等をいただいた上で、8月3日（木）に引き続き審議を行い、1者を決定するというところでよろしいでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○檜田教育長 では、そのようにいたします。算数小委員会の委員長、ありがとうございました。

○檜田教育長 続きまして、「生活」について、審議を行います。

その前に、私から小委員会委員に、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

（「なし」と発言する者あり）

○檜田教育長 それでは、生活小委員会の委員、調査研究報告（答申）の説明をお願いいたします。

○生活小委員会委員 小学校部会、生活小委員会委員の渋谷でございます。

今回、調査研究の対象となったのは、「東書」「大日本」「学図」「教出」「信教」「光村」「啓林館」の7者、合計14点の教科書であります。これらの教科用図書について、教育委員会が定めた基本方針に基づき、生活小委員会において、公

正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりました。

まず、調査研究の観点Aである、北海道教育委員会が作成しました採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。採択参考資料のインデックス〔生活・採択参考資料〕をご覧ください。採択参考資料では、〔生活1ページ〕から、〔生活11ページ〕まで調査研究結果を示しております。

そのうち、様式5に示されております〔北海道とかかわりのある内容を取り上げている具体的な内容〕について、各者の特長がみられました。

特に札幌らしい特色ある学校教育の「雪」に関する視点でお話しします。全者に雪遊びに関わるイラストや写真が掲載されていましたが、3者が北海道の地域の写真を取り上げており、特長が見られました。

教出(上)102、103ページをご覧ください。札幌市で行われている実際の遊びの写真が掲載されていることにより、自分の学校でも同じような雪遊びを行うことができる子どもは分かり、やってみたいという意欲の喚起が可能な内容となっています。

光村(上)96、97ページをご覧ください。札幌市で行われている実際の遊びの写真が、子どもの活動と子どもの思いが書かれている吹き出しがともに掲載されていることによって、子どもが雪遊びについてイメージをもちやすい構成となっています。

啓林館(上)103ページをご覧ください。札幌市に関わる雪のページはありませんでしたが、同じ北海道の学校で作成されたこおりのおめんがページに掲載されていることで、「札幌市でも同じものが作れそうだ。やってみたいな。」という思いを高めることが可能な内容となっています。

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」について説明いたします。インデックス〔生活〕の答申〔生2〕ページをご覧ください。生活においては、ここにありますが計5項目について調査研究を実施いたしましたが、そのうち、1の(1)「課題探究的な学習活動の取扱い」、4の(1)「自己肯定感を育む学習活動の取扱い」については、各者の特長がみられましたのでご説明させていただきます。

まず、1の(1)「課題探究的な学習活動の取扱い」について説明いたします。課題探究的な学習活動においては、子どもがどのように課題をもつことができるかについて、単元での導入時に特長がよく表れたので、お話をします。最初に特に特長が表れた2者についてお話しします。

東書(下)68、69ページをご覧ください。「もつとなかよしまちたんけん」という、地域の探検を主たる活動とする単元において、地域の方に質問して、自

分のまちのよさを発見しようとする様子が大きな写真で示されています。それだけではなく、課題につながる言葉が書かれているとともに、右上には単元における学習の学び方のヒントとなる「かつどうべんりてちょう」のページ数が掲載されていることで、各単元の学習スタート時に子どもは学ぶ方法を知ることができます。これらにより、興味をもってまち探検の学習に向かうとともに、見通しをもてることにより自信をもって自分の知りたいことを意欲的に学ぶことが可能な学習構成となっています。どの単元でも同じような構成になっています。

教出(下)23ページをご覧ください。「もつとなかよしまちたんけん」という、町たんけんの単元での導入の際に、課題につながる言葉が書かれているとともに「わくわくスイッチ」が掲載されており、個人個人で質問に「はい・いいえ」で質問に答えていくことにより、一人一人自分に合った目標を見つけることができる構成になっております。この質問の中には、幼児教育において経験したことや普段の生活が想起できるようになっており、全ての子どもが課題や目的をもって学習することが可能な内容になっております。どの単元でも同じような構成になっています。

「大日本」、「学図」、「光村」「啓林館」においても、共通して導入時で写真を活用し子どもの意欲を喚起することが可能な構成が見られました。それぞれの特長についてお話しします。

次からは画面をご覧ください。

大日本(下)56、57ページです。どの単元でも、キャラクターの吹き出しで、課題につながる言葉が書かれているので、子どもが課題をもつことが可能な構成となっています。

続いて画面をご覧ください。学図(下)4、5ページです。どの単元でもキャラクターの吹き出しと文字で、課題につながる言葉が書かれているので、子どもが課題をもつことが可能な構成となっています。

続いて画面をご覧ください。光村(下)66、67ページです。ほとんどの単元で2ページに渡って、数枚の写真を利用し、文字とイラスト付きの会話文で、課題につながる言葉が書かれているので、子どもがどのような学習を行うかイメージをもちながら、課題をもつことが可能な構成となっています。

続いて画面をご覧ください。啓林館(下)76、77ページです。どの単元でも、はてなマークとともに課題が書かれているので、子どもが課題をもちやすくなる構成になっています。

続いて画面をご覧ください。信州(下)32、33ページです。こちらは、詩を載せるなどすることで、興味をもつことができるような構成となっています。

最後に、4の(1)「自己肯定感を育む学習活動の取扱い」についてご説明いたします。

各者とも、自分の学習の頑張りなどを自分自身で認めることができたり、周りから褒められたりすることができ、自分の成長を実感することが可能な内容となっておりますが、特に特長が大きく表れた2者についてお話しします。

教出(下)98、99ページをご覧ください。「あしたへつなぐじぶんたんけん」では、自分のこれまでの成長について思い出す場面において、「とくいになったことはあるかな」や「どうしてできるようになったのかな。」など、はっけんロードにある吹き出しによって自分の学びを単元の途中でも振り返ることができ、自己肯定感を単元途中においても高めることが可能な内容となっております。

さらに続いて103ページをご覧ください。「はっけんロード」から続いている最後には「ぐんぐんハシゴ」が全単元で掲載されており、自分の達成感を視覚的に自覚することができ、自己肯定感を高めることが可能な内容となっております。

光村図書(下)89ページをご覧ください。「広がれわたし」の学習では、自分の成長を考える学習になっております。小單元ごとに授業を行った際に振り返ることが可能な場所が掲載されております。例えば、自分の成長を考える授業では、「今の自分を見つめてどんなきもちになったかな。」という振り返りを行います。このような振り返る活動は小單元ごとにあります。短いサイクルで振り返る活動が設定されていることにより、嬉しかったことや成長したことを自覚化しやすくなり、自己肯定感を高めることが可能な構成となっております。

以上、生活について説明させていただきました。

○**檜田教育長** ありがとうございます。それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○**中野委員** 1年生の授業をするにあたって、身近なものを題材にした方が良いのだとは思いますが、そうなりますと北海道や札幌になじみ深いものが多い教科書の方が良いというのはあるのでしょうか。

○**生活小委員会委員** 生活科は低学年固有の教科であり、また、平成元年の学習指導要領の改訂において創設されたものであります。それ以前は、理科と社会であったのですが、低学年の物事の認識の仕方について改めて考え、身近な生活に

立脚をして子どもの物事の認識の仕方をしっかりと捉えるものとして誕生した教科となります。ですので、教師の立場からしますと、なじみ深い題材の方が教えやすいということがありますし、子どもたちの立場からしますと、身近な生活を想起しやすいということになります。一方で、教科書は全国を対象としていることから、中には暖かい地域、山間部や漁村などが網羅されていることから、それらの特色を札幌の特色や特質を意識して活用していくことになろうかと考えます。

○中野委員 信教については、長野県の写真が多く掲載されていることから、北海道にはなじみがあまりない印象があったことと、その他の出版社においては、札幌を取り上げている量の差があるものかと思ひ、伺った次第です。

○生活小委員会委員長 委員ご指摘の信教の内容については、小委員会内でも話題となっており、長野の地域に根差した地域・社会環境や週間・風習などを想起しやすいものとなっており、長野の子どもたちにとっては身近なものが割合多いかと考えております。生活科が子どもたちにとって身近な環境を対象にするということに準拠しているということからも、そちらにはそちらの良さがあるのではと考えます。

○中野委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 私からも伺いたいのですが、現在、幼・小の連携の観点からも、生活科はとても重要だと考えますが、幼保との連携も踏まえた特長のある教科書があれば教えてください。

○生活小委員会委員 生活科というのは、今回の学習指導要領の改訂に伴い、幼児期の学びを踏まえて、低学年教育の結節点と位置づけられております。具体的に申し上げますと、幼児期は遊びを通して学ぶ時期となりますが、小学校に入りますと、教科ごとに分化していくこととなります。ただ、低学年は分化が未発達な部分がありますので、例えば、学校探検などで、名刺を作って自己紹介をするとなれば、自分の名前を書くという国語の学習が活かされ、音楽室に楽器がどれくらいあるかという物を数える算数の学習が活かされるなど、各教科の学びが大きな効果的な単元の中で実現される、いわゆるスタートカリキュラムが大事にされています。

各者の上巻の冒頭においてそれぞれ工夫されているおり、スクリーンに表示している教出の冒頭部分を例に挙げますが、学校探検が取り上げられています。小1プロブレムという、小学校に入ってギャップが生まれることを表す言葉が一時期話題となりましたが、そういった状況を解消するため、小学校に入っても幼児期で遊びを通して学んできたことが、きちんと学校生活でも活かせるということを紹介しているものとなります。これらを通して、子どもたちには「自身」「期待」「安心」の3つの意識が生まれることが期待でき、また、入学当初で醸成されるような工夫がされております。

○**檜田教育長** わかりました。ありがとうございました。他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○**檜田教育長** それでは、私から改めて小委員会委員長にお聞きします。調査研究の観点Aに関して、学習指導要領を踏まえた採択参考資料からみた場合、特長が顕著な教科書はどの教科書になりますか。その理由と併せて、お聞かせください。また、調査研究の観点Bである「札幌市として設定する調査研究項目」において、特長が顕著であったのはどの教科書ですか。その理由と併せて、お聞かせください。

○**生活小委員会委員** 調査研究の観点Aに関して、特長が顕著な教科用図書は、「教出」「光村」の2者となります。2者について、札幌の子どもたちと関わりの深い雪遊びの写真などを効果的に用いて、子どもたちが主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされていることが理由となります。調査研究の観点Bに関して、「東書」「教出」「光村」の3者となります。東書及び教出については、単元の導入に工夫がされており、子どもたちが見通しや目的をもって主体的に学習を進めることが可能であること、東書及び光村については、単元の振り返りを単元途中にも行えるような工夫がされており、自身の頑張りや成長を自覚するとともに、自己肯定感を高めることが可能な構成になっていることが、それぞれの理由となります。

○**檜田教育長** ただ今の意見によりますと、観点Aにおいて、特長が顕著であった教科書は、札幌の子どもたちが関わりの深い雪遊びの資料を効果的に用いられ、また、主体的な学習に取り組むことができることから、「教出」「光村」ということであります。観点Bにおいては、子どもたちが自己肯定感を高められる

ような取組が可能であること、単元の途中で振り返りを行うことで、自身の頑張りが成長を感じることができることなどの工夫・配慮がされていることから、「東書」「教出」「光村」とのことでした。これにつきまして、質問や意見がありましたらお願いします。

○石井委員 私は、「教出」と「光村」が良いのではないかと考えます。雪遊びという北海道らしさが掲載されていることや、自己肯定感を高める工夫があること、特に教出の「わくわくスイッチ」を気に入っており、はい・いいえで選択できることが、1年生の子どもたちが興味を持ちやすいのではないかと思います。また、「学びのポケット」について、3年生に学齢が上がる際、他の科目へも興味を持ちやすいのではないかと考えます。併せて、自己肯定感を高める学習の取扱いについても、2者ともに特長があったということが理由となります。

○中野委員 私も「教出」と「光村」が良いのではないかと考えます。3者で良いのであれば、生活の上巻においては「東書」も良いと思うのですが、2者ということであれば、北海道のことが掲載されている2者で良いかと考えます。

○阿部委員 私も「教出」と「光村」が良いのではないかと考えます。石井委員と同様の意見で、教出の「ぐんぐんはしご」において、自分の過程がわかることや、振り返りに充実していること、光村については、振り返りに充実しており、イラストや子どもの言葉を使って気づきを促すということがそれらの振り返りとセットになっていることに共感を持ちました。また、光村の最後に発表するコーナーがあり、アウトプットがあることでみんなに自分を知ってもらえるという一連の流れが良いものだと考えたことが理由となります。

○佐藤委員 私も「教出」と「光村」が良いのではないかと考えます。特に教出の「発見ロード」と「ぐんぐんはしご」については、小学校1・2年生に非常に刺さるもので、また、授業でうまく使うことができれば、非常に効果的なものだと考えました。「ぐんぐんはしご」は3段階で自己評定できるようになっていることも良いものだと考えたことが理由となります。

○檜田教育長 札幌の子どもたちの課題の1つとして、自己肯定感をより高めるといっていますが、阿部委員の仰っていた、最後に発表することでアウトプットしながら、お互いの良さを認め合い、自己肯定感を高めていくこと、遊

びを通して学ぶという点からしますと、「教出」「光村」がよいのではと考えました。「東書」に関してはいかがでしょうか。

○中野委員 「教出」と「光村」で良いかと思えます。

○檜田教育長 それでは、委員の皆様の意見や小委員会委員長の意見を踏まえ、
ますと、「教出」「光村」の2者に絞らせていただき、最終的に8月3日（木）に
引き続き審議を行い、1者を決定するというところでよろしいでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○檜田教育長 それでは、協議第1号の本日の審議を終了いたします。

○檜田教育長 7月24日は、小学校部会及び小学校部会と兼ねている義務教育
学校前期課程部会の残り6つの小委員会について審議をいたしますので、よろ
しくお願いいたします。

○檜田教育長 その他、各委員から何かございますか。

（「なし」と発言する者あり）

○檜田教育長 以上で、令和5年第11回教育委員会会議を終了いたします。